

## 第2回改善検証会議議事録

1. 日時 2006年11月15日(水) 10:30~12:10
2. 場所 加古川製鉄所 総合事務所 101会議室
3. 出席者
- |      |                  |         |
|------|------------------|---------|
| 兵庫県  | 健康生活部 環境担当部長     | 垣内 秀敏 殿 |
|      | 環境管理局長           | 嵐 一夫 殿  |
|      | 東播磨県民局 局長        | 山田 一成 殿 |
| 加古川市 | 助役               | 藤原 崇 殿  |
|      | 環境部 部長           | 大浜 俊 殿  |
| 当社   | 代表取締役副社長         | 佐藤 廣士   |
|      | 常務執行役員 加古川製鉄所長   | 田中 毅    |
|      | 常務執行役員鉄鋼部門技術総括部長 | 大西 功一   |
|      | 常務執行役員(環境防災部の担当) | 吉田 達樹   |
- 他随行者、事務局

### 4. 内容

#### (1) 挨拶

##### 【神戸製鋼】

現在、ばい煙問題について、事業所と本社が一体となり、先に策定した再発防止策を進めているところであり、おおむね順調に進んでいる。

対策推進にあたり、実務レベルでは、「教育」、「組織・規定」、「要員」、「設備・技術」、「情報公開」の各分科会を適宜開催し、また、毎月1回の「対策フォロー部会」で進捗確認、情報の共有化を図っている。役員レベルでは、毎月1回「経営審議会」にて対策の進捗状況や環境管理の状況等を報告、議論し、PDCAを廻しながら改善を図っている。

本日の第2回改善検証会議では、進捗状況の説明に加え、粉じん対策についての現地確認を予定しております。忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

##### 【兵庫県】

追加対策としてグラファイトの飛散防止についても取り組んでもらっているが、誠心誠意対策を実施していくことが神鋼の信頼回復に繋がる。取り組み状況を県としても注視させてもらい、また、可能なことについては協力していきたい。

#### (2) 委員の紹介

全社の環境担当役員が佐藤副社長から吉田常務に変更になったため、改善検証会議の委員に吉田常務を選任する旨、事務局より説明した。

### (3) 取組状況について

#### 1) 全社の取り組みについて

- ・コンプライアンス教育や、環境教育・学習については、教材の整備が完了し、現在、計画に則り実施中である。
- ・排出基準を超過しないための規程・標準類の整備は完了した。今後、必要に応じて見直していく。
- ・環境管理体制を強化し、事業所への立ち入り調査を実施中である。また、社外コンサルも参画した環境監査を実施中である。

#### 2) 事業所の取り組みについて

- ・教育に関しては、学識経験者による講演会を実施し 800 名程度が受講した。また、従業員による「本音の議論」を開始した。
- ・所内の 24 時間環境監視体制を構築した。また、粉じん飛散抑制対策として清掃強化に努めている。
- ・キッシュグラフィット対策として応急対策を完了した。また、ばい煙発生施設へ NOx 連続測定装置を設置し、警報出力機能を追加した。
- ・市役所、別府、浜の宮、播磨町に公開モニターを設置した。また、環境関連情報のホームページに手分析値についても追加し掲載中である。

### (4) 現場確認

- ・防じんネット設置予定地、溶銑予備処理地区（除滓場、排滓棟）の現地確認を頂いた。

### (5) 討議

兵庫県より、粉じんネットの効果を定量化することで、より地域の方から理解を得られやすくなるとの意見があった。

また、住民アンケートの結果を活用し継続的な検証を行うべきであるとの意見があった。当社から、製鉄所の環境報告書（11 月発行予定）の中で結果解析と対策を合わせて示す旨説明した。

兵庫県より、さまざまな対策を前倒しで実施して頂いていることは感謝しているとの意見があった。事案発生当時と比較し、現在の地域の方の説明会などにおける反応の変化について質問があった。

当社から、地域の方からの「実感として粉じんが減少してきている」というご意見や、清掃で効果が出たことに対し、「これまで何をやっていたのか」という指摘等を頂いている旨、回答した。また、年明けには粉じんの目標値を設定し、住民説明会を実施する予定であり、その結果をお知らせしたい旨説明した。

兵庫県より、グラフィイト対策について質問があり、苦情の電話が 1 件あったものの、効果は出ていると認識している旨回答した。

兵庫県より、従業員の意識の変化について質問があった。当社より、環境管理専門者が 7 日間立入調査したところ、作業標準が整備され、遵法意識も大きく改善されていることが確認できた旨回答した。また、環境監査時において、単独の作業標準では問題なくとも、他の工程への影響を考慮する必要があるものがあり、工場間の連携を充分に行うよう指摘したことを説明した。

兵庫県より、フリーダイアルの状況について質問があり、10 月末まで累計で約 120 件（11 月は 1 件）の問合せがあった旨回答した。

加古川市より、社外のコンサルタントの関与等について質問があり、あずさサステナビリティ株式会社の参画により、監査の手法や監査の範囲などについての専門性を活用している旨回答した。

加古川市より、市に送られたデータがそのまま本社にも送信され、監視できるシステム構成とするよう要請を受けた。

加古川市より、事故が発生すると地域住民は心配になるので、安全面でも徹底して欲しいとの意見があった。また、対策の実施状況を従業員にも分かりやすく示すことが大切との意見があり、当社から、近隣の方に聞かれたときに返答できるよう定例的に従業員に対しても状況説明している旨回答した。

兵庫県より、粉じんの目標値を数値で示すときには、環境基準が設定されていないものであり、また、全てが製鉄所の影響ではないので、考え方をよく整理するようとの指導があった。

以上